

検査問診票① 胃 ・ 大腸

記入日：

診察券ID 氏名 性別 生年月日 (歳)

(過去に検診で指摘を受けたこと・いつからどこでどのように治療を受けたか・手術の内容など)

○ 心臓の病気、高血圧症 (ある・ない) ・病名

○ 脳の病気 (ある・ない) ・病名

○ 呼吸器の病気 (ある・ない) ・病名

上記以外にかかっている病気はありますか？ (ある・ない)

・緑内障 ・前立腺肥大症 ・甲状腺亢進症 ・糖尿病

・婦人科疾患 (子宮筋腫、子宮後屈、卵巣嚢腫) ・その他 ()

2 現在、服用中の薬をすべてご記入ください (市販薬・サプリメントを含む) (ある・ない)

4薬のアレルギーについて

・歯の麻酔で気分が悪くなったことはありますか？ (はい・いいえ)

・その他に薬のアレルギーはありますか？ (はい・いいえ)

薬剤名： その時の症状：

5タバコは吸われますか？ (はい・いいえ)

過去： 年前まで 年間 本/日 現在： 年間 本/日

7飲酒されますか？ (飲む・飲まない) 飲酒時顔が赤く (なる・ならない)

過去： 年前まで 回/週 杯くらい、現在： 回/週 杯くらい

8女性の方へ 妊娠または授乳中ですか？ (いいえ・妊娠中・授乳中)

胃カメラを受けられる方

1 今までに胃カメラを受けたことはありますか？ (はい・いいえ)

最後の検査は、 年頃 病院/クリニック

2 ピロリ菌の検査をされたことはありますか？ (はい・いいえ・今回検査希望)

はいの場合→結果 : 陽性だった → 除菌: 年・除菌していない

: 陰性だった

3 今までに胃や食道の病気をされたことはありますか？ (はい・いいえ)

()

4 血縁関係の方で、胃がん、ピロリ菌感染症の方はいますか？ (はい・いいえ)

病名： 続柄：

5 総入れ歯・部分入れ歯・ぐらつく歯はありますか？ (はい・いいえ)

大腸カメラを受けられる方

1 今までに大腸カメラを受けたことはありますか？ (はい・いいえ)

最後の検査は、 年頃 病院/クリニック

2 今までに大腸の病気をされたことがありますか？ (はい・いいえ)

()

3 血縁関係の方で、大腸がん、大腸ポリープの病気の方はいますか？ (はい・いいえ)

病名： 続柄：

4 今までにおなかの手術をされたことはありますか？ (はい・いいえ)

()

5 お通じは何回ありますか？ 1日に 回、 1回/ 日 形状：

便秘薬：薬剤名 を毎日・時々使用

下部消化管内視鏡検査に関する説明と同意書

様

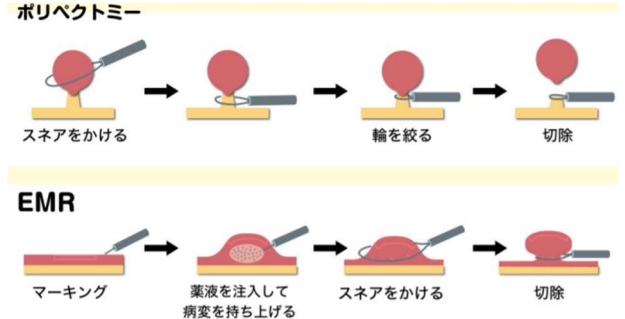
診察券ID : _____

【目的・方法】

大腸の疾患を診断するための検査です。肛門から大腸に内視鏡を挿入し、空気で膨らませながら観察します。大腸内をきれいにするため、前日より準備を行います。必要に応じて粘膜組織の採取や色素撒布を行います。アレルギー、キシロカインアレルギーの既往のある方は必ずお申し出ください。

【内視鏡的大腸ポリープ切除術】

切除が必要な大腸ポリープが認められた場合、ご希望によりポリープ切除を行います。抗血栓薬内服中の場合や、ポリープの大きさ・数により、1-2日間の安静が望ましいと判断した場合は、入院施設のある病院へご紹介致します。ポリープの大きさや形状により種々の治療法がありますが、基本的にポリープの根本に電流を流して熱で焼き切ります（ポリペクトミーもしくはEMR法）。



【ポリープ切除術に伴う偶発症】

主な合併症には出血と穿孔（穴が開くこと）があり、治療後1週間は注意が必要です。一般に頻度は1%であり、切除に伴う穿孔の頻度は約 0.1% です（自験例では、穿孔は0、出血は直近3年間で1例です）。合併症が起きた場合は、適切に対応いたしますが、入院が必要になることもございます。その際の診療は通常の保険診療で行われます。

【内視鏡検査の偶発症】

- ・ 内視鏡挿入による消化管粘膜の出血・穿孔 発生頻度：0.012% (8千人に1件)
- ・ 前処置・検査に伴うショック（血圧低下等）、アレルギー等 発生頻度：0.004% (2万5千人に1件)

合併症が起きた場合は、適切に対応いたしますが、入院が必要になることもございます。

【注意事項】

治療後 1週間は、血流が良くなること（サウナや長時間の入浴、激しい運動など）、腹圧がかかるようなこと（排便時のいきみ、ゴルフ・筋トレなど）は避け、アルコールの摂取はなさないで下さい。

検査後1週間のご予定の調整をお願い致します。

※鎮静剤使用について

痛みや不安を感じる程度にはかなり個人差がございます。鎮静剤を使用すると不安や苦痛が少なく検査を受けていただけます。使用する場合は、検査直前に点滴から鎮静剤を注射します。

【注意事項】

検査後は最低30分以上院内で休んでいただきます。鎮静剤の効果は個人差がありますが、転倒の危険性が高まり、判断力が鈍くなることがあります。また、効果は時間とともに弱くなっていきますが、ご自分ではあまり感じなくとも、当日中はずっと続いているとお考えください。運転は非常に危険ですので、当日は、車・バイク・自転車などの乗り物の運転はできません。万が一事故を起こした場合は自己責任となり、当院では責任を負いかねます。

妊娠・授乳中の方、高齢の方、心臓・肺・肝臓の機能が弱い方には使用できない場合があります。また、鎮静剤の使用により呼吸抑制（停止）、低酸素血症、血圧低下などが報告されています。過去5年間の内視鏡学会全国調査（約1200万件）では鎮静剤による合併症は 178 例が報告されております。合併症が起きた時は、適切な処置を行いますが、その際の診療は通常の保険診療で行われます。

使用しない（医師が必要と判断した場合には検査中ご説明の上、使用場合があります）

使用する ※鎮静剤の効果には個人差があり、きめ細かく調整しても、結果的にご希望に添えない場合がある事をご了承ください。

ご承諾いただいた方はご署名の上、検査前にご提出下さい。

承諾日： 年 月 日 ご署名

※当院ホームページにて内視鏡画像の掲載（匿名、撮影日時等個人情報につながる掲載はございません）を行うことがございます。掲載の許可の可否を○印で記載下さい。なお、許可の可否により診療に影響がでることは一切ございませんのでご安心下さい。

- ・ 掲載を許可する
- ・ 掲載を希望しない

ほその内科おなかクリニック
院長 細野智子

